

エゾオオカミが1900年頃絶滅 生態系に影響しているのか？

エゾオオカミの絶滅は、 人間の活動が原因



エゾオオカミは北海道の大地にたくさん住んでいました。主にエゾシカを食べて暮らしていました。しかし、明治時代の開拓で環境が急に変わり、シカの数が減がきかけとなって、食べ物も失ったオオカミは、家畜をおどるようになり、人々は、報奨金や「ストリーネ」という毒によって、1890年代に絶滅したようです。

エゾオオカミとエゾシカは 食べる⇔食べられる関係

オオカミとエゾシカはどのような関係でしょうか。オオカミはエゾシカを食べて食べます。しかし、エゾシカはエゾオオカミに食べられることによって、自分たちの数のバランスを保っていました。つまり、エゾオオカミのおかげでエゾシカが増えすぎるということがなく、自分たちの食べる草や葉の量も丁度良いバランスでした。

エゾオオカミ絶滅により エゾシカが増加！

北海道の頂点捕食者であったエゾオオカミがいなくなるとエゾシカが増えすぎて、農作物の被害や植生の破壊が進み生態系のバランスが崩れてきています。

次は、エゾシカが害者になっています。エゾシカに農作物を荒らされたり、車とエゾシカの交通事故や、列車とぶつかることもあります。草食動物のシカは、肉食動物に食べられることで数を調節するためのエゾシカは、強い繁殖力をもっています。2000年頃は、約30万頭でしたが、2023年のデータでは73万頭に増えています。増えすぎたエゾシカをこれからはどうしていいかわかりません。

私には好きな生きものと苦手な生きものがあります。でも好き嫌いにより、生きものの同士のつながりを考えることも大切だと思いました。山や川や湖に入ると学校では体験できない世界がたくさんあります。これから新しい生きものを知りたいです。

編集後記



私は、2026年7月に学校の友人たちと、伊達市の長流川に生きものを探しに来ました。伊達市で環境教育を行っている、いきものいんくしの先生と川の生きものを観察したり、生きものどうしのつながりについて勉強しました。川では、ヒカシニホントカゲや死んだシカの骨を見つけたり、足でカサガサをしておみで魚やエゾシカが出たり、生きもの最近、札幌の街中にヒグマやエゾシカが出たり、生きもの環境が変化しています。私が北海道の自然を守るために何ができるかを考えたいと思います。今回の新聞づくりはいい勉強でした。

伊達市の長流川で生きもの探し

北海道の食物連鎖と 人間の役割は？新聞



猛毒をもつハブ対策に インドからマングース！

沖縄では、猛毒をもつハブを駆除することを目的に、インドから1910年にマングースが20頭持ちこまれました。しかし、マングースはハブをあまり捕食せずに沖縄の在来種を食べる問題が起こりました。ヤンバルクイナという鳥やアマミノクロウサギなどの沖縄にしか生息しない野生動物が食べられて、生態系が破壊されました。

人間の都合で、今は 駆除されるマングース

人間の都合で持ち込まれたマングースは、沖縄では害者になってしまいました。そして、現在は、駆除の対象となっています。もう同じことをくり返さないでほしいです。

世界中の人間が 学んで協力して

人間には、自然界にほんの敵はいませんが、頂点ではないと思います。自然界ではいろいろな生きものがつながりあって生きています。一つの生きものがいなくなると、ほかの生きものにも広がって自然のバランスがくずれてしまいます。自然をこれからも守るには、世界中の人々が学んで協力することが重要だと思います。

